ふしぎなフーセンガム

「自分らしさ」を大切に

3年　A・Aさん

ぼくは、「ふしぎなフーセンガム」を読んで、お兄ちゃんのことを思いうかべました。

昔、お兄ちゃんは、一番好きな色のピンクのコートとくつをはいて、ようち園に通っていました。ぼくも、おさがりで、そのコートを着てみたけれど、ようち園で「女の子みたい」とからかわれていやな気持ちになったので着なくなりました。ぼくは、お兄ちゃんもいやなことを言われていなかったか気になったので聞いてみると、「多分悪口やいやなことを言われているけど、何を言っているかまでわざわざ聞いていない」と言われました。ぼくは、それを聞いて、気にしないところがすごいなと思いました。今も、お兄ちゃんはねこの絵がかいてあるふりふりの日がさをさして出かけています。

主人公のじゅんくんは、ゆびあみが好きな、〝男の子らしく〟ない子です。それを人にからかわれたり、お母さんにもサッカーをするように言われることに、じゅんくんはモヤモヤしていました。だから、ふしぎなフーセンガムで女の子に変身し、好きなことをする自分をかくそうとします。

そんな時、同じクラスの女の子から「男だから男らしくしろとか女だから女らしくしろとかへんだと思わない?」と言われます。じゅんくんは、この子のことをらんぼうで苦手だと思っていたけれど、本当は〝女の子らしさ〟より自分らしさを大切にしている子だと気がつきました。

自分らしさとは、男の子でも女の子でも関係なく、みんなが好きなことを大切にすることだ、とぼくはこの本を読んで思いました。

これから、ぼくも好きなものをたくさん見つけていきたいです。そして、ほかの人の〝自分らしさ〟も大切にできる人になりたいです。

お話のさいごに、「ぼくはぼくなんだ」と思いはじめたじゅんくんはこれからどんな人になるのかな。